

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第263号
(12月)
2022

いども家庭庁の創設

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

盛岡幼稚園創立百十五周年の祝賀会が十一月十三日グラランドホテル会場で開催され、新時代を迎える幼児教育・保育について心新たにいたしました。

創立記念節目の本年は気温差の激しい初冬でした。園庭での鮮やかな紅葉落ち葉が、園児達の関心のまどで、拾っては見くらべ「この色見て！」競って報告に來ます。また先日、園庭で駆けまわっていた子がふと立ち止まり、真っ白いふわふわ落ちる空からの雪をじっと見つめていました。

自然に直接触れた時の神秘さや不思議に目を見張る心、美しいものを美しいと感じる感覚。セン

スオプワンダーの感性が育まれる貴重な季節であり環境です。

さて創立記念で心新たにしたい盛岡幼稚園は、令和五年四月早々から「いども家庭庁」として新しい組織体制のもとで充実します。振り返って、我が国の幼児期における育成政策は、文科省所管の幼児教育・幼稚園に始まり、共働き等の子ども養育補完の厚労省の社会福祉保障・保育所、そして現代的施策として幼保一元化を目指す内閣府所管の「いども園」として整備されてきました。

以前から、子どもに関する取り組み教育・保育を一元的に推進する司令塔が創設され、その後の発

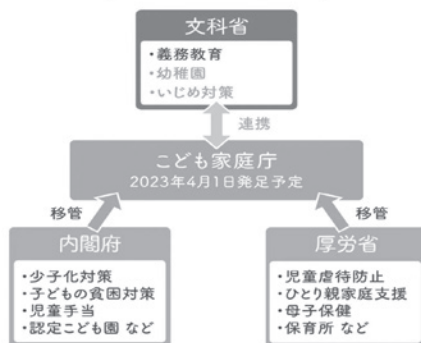
達や育ちの接続が一貫する総合的施策が課題でした。

この度は総理大臣直属の機関として、内閣府に位置づけることとなり、種々の議論を経て「いども家庭庁」のもと、企画立案・総合調整部門、育成部門、支援部門の三部門として発足の予定。さらにこの機構がうまく機能し推進するため、必要な財源や政策にかかわる人材の確保が準備されているようです。

ともあれ、私ども幼児教育界が長年にわたり伝統的に実践継承してきた、幼児期は人格形成の基礎を育む重要な時期、次代に生きる必要な資質・能力として ①発達にに応じた知識・技能の基礎を育む、②それをもとにした思考力・判断力・表現力の基礎を培う、③学びに向かう力や人間性の育成を教育要領三本柱の大事な指針とし、さらには幼児期における非認知能力の育ちは六歳頃までが最も伸びるとの科学的見地から、心情・意欲・態度を様々な環境を通して育てる保育活動が幼児教育の基本であり、その継承を大切にしたいものです。

また近年の社会環境は、少子高

いども家庭庁のイメージ



齢化、ウイズコロナの三密回避、戸外での子どもの遊ぶ姿が消え人間関係の希薄化、多様な考え方の触れる機会の減少が子どもの心の育ちに影響を与えていると指摘されます。

そんな状況でこそ、冒頭の園庭での身近な自然に触れる体験の豊富な機会が必要で、従来からの自然直接体験の保育活動を重視する基本姿勢を新行政官庁に切望するものです。



創立一一五周年に思いを馳せて

子どもと共に感謝の日々

小林 弘子（学園評議員兼年長副担任）

創立一一五周年おめでとうございます。心から嬉しく思っております。

私は第八〇回創立事業から参加させて頂いており、創立事業に関わるたびに、様々な困難を乗り越え幼児教育に携わってきた歴史に想いを馳せます。

私が幼稚園に勤務した当初は戦前から勤務されていた小原睦子先生が在職中で戦前戦後の大変な時期のお話を聞く機会がありました。また、当時は毎朝職員礼拝があり、小原先生が礼拝の司会をされ、子ども達が神様に守られて一日無事に過ごせるようにと、折々の言葉で紡がれる祈りの言葉が好きだったことを思い出しました。

創立祝賀会では、子ども達の祝いの歌や劇遊び等の発表がありました。リハールなしでのホテルのステージで緊張しながらも、毎回可愛らしい姿を見せてくれました。今回は残念ながらコロナ感染症対策のため出演できませんでしたが。毎回祝賀会では、卒業生が

大活躍し、特に創立八〇周年祝賀会では第一回卒業生の井上妙子さんから第八〇回卒業生 A クラスの子どもまで「キャンドル・リレー」が実現できたことでした。壇上の卒業生一人一人がゆつくりキャンドルを点火していく様子が盛岡幼稚園の歴史の重みを感じ感動的なひと時でした。

第九〇回記念事業として、タツピング先生のピアノの修復がなされ、祝賀会でお披露目の演奏会が行われました。演奏者は当時高校生の小川裕子さん。演奏前は緊張の様子を見せていましたが、素晴らしい感動的な演奏会となりました。その裕子さんが今は母親となり、二人のお子さんが当園に通っています。

先日、子ども達のために保護者の方々の演奏で「クリスマスコンサート」がありました。裕子さんがタツピング先生のピアノを再び弾く姿に、当時を思い出し胸にせるものがありました。

子ども達が大人になっても、懐かしく幼稚園の事を思い出せる場所でありますように、歴史が長く続きますよう祈っております。

保護者そして卒業生として

兼古 由香（B クラス 栗歩）

盛岡幼稚園創立一一五周年、おめでとうございます。

親子で盛岡幼稚園にお世話になっております。三〇年近く前には、私自身も今と変わらぬエプロンを付けて担任の高村先生のもと毎日楽しく遊び、当時は路線バスでの通園が可能であったため、バス停まで吉田先生に送って頂く幼稚園時代を過ごしました。お泊り会の肝試しでうまい棒を取ってきた記憶、運動会のマット取り競技で一人勝ち状態だったこと、聖誕劇で沢々天使役をやったこと。断片的ではあるものの強烈な記憶が今でも残っています。その私の記憶をなぞるように二人の娘たちも盛岡幼稚園で楽しい経験を重ねていることは、とても感慨深いものがあります。聖誕劇では母と同じ役がいいと天使役に立候補していた現小一の長女、来年は天使役をやりたいと今から練習している B クラスの次女。行事ごとに成長を感じさせてくれています。

私のように盛岡幼稚園での思い出を持っている卒業生はたくさん

いると思います。保護者兼卒業生を度々お見掛けするのは、盛岡幼稚園の良さを知っているからであり、盛岡幼稚園を変わらず守って下さっている園長先生をはじめ先生方のご尽力のおかげだと感じております。また制限のかかる中で多くの経験をさせて頂き、子供たちの思い出が増えている事に日々感謝しています。将来、私と同じように、娘たちが盛岡幼稚園の思い出を懐かしく思い返してくれることを期待しながら、あと一年余りの園生活を親子共々楽しみながら成長を見守っていききたいと思えます。



運動会伝統「マット取り」

卒園児から幼稚園へメッセージ

桜城小学校二年 小野寺文香

もりおかようちえんで一ばんたのしかったことは、Aクラスのりレーです。さいしよはまけていたけど、まさかずくんがおいこしてくれて一いになることができたからです。わたしは学校でべんきようをがんばっています。一ばんとくいなべんきようはさんうと音がくです。まい日あさのかいで、みんなであたをうたうのがたのしいです。これからもべんきようをがんばりたいです。

附属小学校五年 浪岡佑祉

第二〇回卒園生、浪岡佑祉です。今はミニバスを頑張っています。

ふと思えば、トトロランド、運動会、日々の遊び、遠足、タツピングの畑、卒園式、BからAに行くドキドキ感、全てが今でも心があたたくなる思い出です。これらもいつもそばであたたくく見守っていた先生のおかげだと思っています。これからも楽しくすてきなMKGでありますように。一二五周年おめでとうございます。

杜陵小学校二年 田口 遼太郎

もりおかようち園、そう立一二五周年おめでとうございます。ようち園での一番の思い出は、かんさつ園でそだてたビーマンを夕ごはんのおかずで食べたことです。小学校では、ナスをそだてました。今でも野さいが大好きです。おとまり会ではできなかったけれど、夜にみんなでカレーライスを作って食べたことも楽しかったです。これからぼくははやいボールをなげるピッチャーになりたいです。

下橋中学校二年 藤澤真優

泣き叫んでの登園から始まった幼稚園生活でしたが、園での時間は楽しい思い出ばかりです。特に年長さんの時、大好きな先生に褒めて欲しくてフラフープと側転は毎日のように練習していました。今でも体を動かすのが大好きです。私は今、アーティスティックスイミングの選手として頑張っています。目標は国体に出ることです。辛いことも沢山ありますが、頑張ろうと思っています。

祝賀会を終えて

心に残る大切な時間

岡田 彩 (つばみクラス 葵)

このたびは創立一二五周年おめでとうございます。記念式典・祝賀会に参加させていただき、ありがとうございました。盛岡幼稚園が積み重ねてきた長い歴史に感謝を受けました。

中でも、卒業生である法人役員の方々のお話が大変印象的で、「昭和十三年初めての日本人の園長を務められた佐藤トク先生は、昼食の時間になると「ごま塩」を持ってまわり、おかずがなくなつた子どもたちの白ご飯にふつてくださった。」「園庭の鉄棒のある場所が落ち着いて、不思議とそこが私の定位置になっていました。」など、皆さまが当時のエピソードを今でも鮮明に覚えておられました。

それらのお話を拝聴し、私自身も幼稚園のときのことを思い出しました。園の景色やそこでキイチゴを摘んだこと、先生のお顔、今でも歌える園歌や幼稚園で歌った歌の数々、様々なものが次々と蘇ってきました。大人になっても

こんなにも幼少の頃のことを覚えているものだと驚いたと同時に、娘もいま人生の中で心に残る大切な時間を過ごしていると感じました。それに気づき、改めて今の娘との時間を親として大事にしようと思いました。

ふたばクラスからお世話になっている盛岡幼稚園は、娘にとつても、近くに両親や親戚の住んでいない私にとつても、第二の家庭のような存在です。日々、娘をあたたく受け入れ、成長を共に喜んでくださり、ありがとうございます。盛岡幼稚園のますますのご発展をお祈りいたします。



創立 115 周年記念式典・祝賀会

創立一一五周年記念行事

★創立一一五周年記念運動会

(9月17日)

★作品展(10月25日・27日)

今年度のテーマは『創立一一五周年おめでとうパーティ』!!

三年ぶりとなる仁王小学校での運動会開催。盛岡幼稚園の園旗を掲げながら子ども達が入場し、年長児の代表が創立一一五周年の『お祝いの言葉』を述べました。

かけっこ、障害物競走、リレー……どの競技も力いっぱい頑張りました!パラバルーン演技では、最後の決めポーズと共に「一一五周年おめでとう!」の声が響きました。



作品展『創立 115 周年おめでとうパーティ』

★芸術鑑賞会(10月6日)

人形劇団ひばりあむによる『かえるくんかえるくん』を鑑賞しました。オランダの作家マックス・ベルジュイスの絵本『かえるくん』シリーズの物語に合わせて、可愛らしい人形が本物のように動き、子ども達も最後まで夢中で観ていました。鑑賞後、劇中で使用した人形や小道具に触れたり、実

際に動かしたりと、貴重な体験もさせていただきました。翌日から、人形劇ごっこをして遊ぶ子どももいました。

★クリスマスコンサート

(12月1日)

保護者によるピアノ・マリンバ・カホンの楽器演奏に、子ども達も手拍子や歌で参加しながら楽しい時間を過ごしました。クリスマスメドレーやジブリメドレーなど親しみのある曲、本格的なクラシックの曲など、さまざまな音楽に触れました。『タツピングのピアノ』での演奏も聴きました。



クリスマスコンサート♪

編集後記

今年もアドベントの時期を迎え、わくわくした気持ちでクリスマスの準備が始まりました。年長児は幼稚園最後の行事、聖誕劇に取り組み、年少の子ども達はそのれ、クリスマスのお話を聞いて静かに過ごします。先日、「クリスマスコンサート」が行われ「タツピングのピアノ」の音色に触れる機会がありました。「お家のピアノと違う音」「優しい音」普段のピアノと違う音色に子ども達なりに長い歴史を感じ特別なものと思つたのかも知れません。創立一一五周年を迎えた今年度もコロナ禍にありましたが、未来ある子ども達がかからも元気に前に進めるよう共に見守っていききたいと思ひます。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0001

盛岡市中央通一六四七

TEL 六二二-二三〇一

理事長 坂本 洋